



## 姉妹都市交流2008

仁賀保中の生徒ら18名が  
ショウニー市を訪問

### 訪問団スケジュール

9/25(休)	仁賀保発～乗り継ぎダラス空港へ(日本出国)
26(金)	ショウニー着～アメフト観戦～歓迎パーティーなど
27(土)	乗馬体験など
28(日)	ホストと自由行動
29(月)	TDK～グローブ校～お別れパーティーなど
30(火)	オクラホマ歴史館～サンタ・フェ・デポ～平和公園など
10/1(水)	ショウニー発～乗り継ぎダラス空港へ(アメリカ出国)
2(木)	成田空港着～乗り継ぎ仁賀保着

9月25日から10月2日まで7泊8日の日程で、親善訪問団(仁賀保中学校生徒14人、引率4人の計18人)がアメリカ・オクラホマ州ショウニー市(平成2年姉妹都市提携)を訪問しました。

8月に本市を訪問した友人たちとの再会やホームステイなどの体験、広いアメリカの大地から多くのことを感じ、生徒たちはひと回り大きくなって帰国したようです。

### ショウニーを訪問して

(訪問団レポートから抜粋)

団長 仁賀保中学校 校長 須藤 完

ショウニーの地平線まで見たせるような、そして雲一つない広大な青空に圧倒された。そして、そこに住む人々は、おらかな中にも細かい心配りのできる、優しさに満ちあふれた方々であった。

ホストファミリーをはじめ現地の姉妹都市委員会の方々の心温まる歓迎には、これまでの本市との交流の積み重ねが、このような温かい関係を作ってきたのだと思った。そして平成のはじめ、さまざまな苦難を乗り越えてショウニー市との調印にこぎつけた関係各位のご苦労に思いをはせ、その歴史の重さに頭がさがる思いがした。

14名の生徒たちは、どんな思いであったのだろう。団体での行動中は、向こうの中学生と意気投合し、歓声ばかり目立っていたが、一人になったときは、それぞれの一期一会があり、不安や期待が入り交じったような感覚の中で、夢のようなワクワ



▶ショウニーウルブズ(ショウニー高校のアメフト部)の試合で観客に紹介される



# 子どもが大切にされる 社会をつくるために

くにかほ市要保護児童対策地域協議会

子どもにとって  
最も良いことを考える

子どもに関係することを、決めたりに行ったりするときは、子どもにとって最も良いことは何かを、第一に考えなければなりません。

親には子どもを育てる  
責任がある

親は、子どもを守り、成長に  
応じて適切な指導をしなければ  
なりません。保護者には指導する  
責任があります。

子どもには育つ権利がある

子どもには、自分の良さを伸ばすために教育を受ける権利があります。時には休息したり遊んだりすることも必要です。

子どもを守る責任

子どもが親などから暴力を受けたり、ひどい扱いをされること  
がないよう、社会全体で子ども  
を守らなければなりません。

### こんな時・・・どうする？

自分は虐待だと思うが、周囲は  
大丈夫だとか放っておけと言う



虐待は隠されていることが多く、もしかしたらという疑問は虐待発見の大きな契機となります。関係機関で判断しますので、ご相談ください。

虐待と言えらるほどひどいもので  
はないような気がする



もし虐待でなくても、苦しい思いをしている親子からのサインかもしれません。早期に援助できることがありますので、ご相談ください。

自分が通報したことを、本人や  
他の人に知られたくない



相談者に関する情報は決して外に洩らすことはありません。通報者のプライバシーも法律によって守られます。

### 相談窓口はこちら！

◆児童虐待などの連絡・通報先  
すくすく子育て支援課(要  
保護児童対策地域協議会調  
整機関) ☎32・3040  
秋田県中央児童相談所 ☎0  
18・862・7311

#### ◆家庭児童相談員

「子どものことならなんでも  
お気軽に相談してください」  
すくすく子育て支援課では、  
家庭相談員が18歳未満の子ども  
に関するさまざまな相談を受け  
ています。面接相談のほか、電  
話相談にも応じています。

#### ○相談内容

親子・家族関係の相談、い  
じめ・対人関係・不登校な  
どの教育相談、子どもの心  
身の発達に関する相談、家  
庭内暴力・窃盗などの非行  
相談など

#### ○相談日時

毎週月・水・金曜日  
午前8時30分～午後4時  
(祝日・年末年始は休み)

#### ○相談場所

家庭児童相談室(すくすく  
子育て支援課内)  
☎32・3040

ク感をたくさん味わったのでは  
ないかと思う。  
ショウニーの良さ、日本の良  
さを再認識したり、異国の空気・  
文化・生活に、じかに触れるこ  
とでひと回り成長できたに違  
ない。

団員 仁賀保中学校2年

山本 諒

アメリカにも慣れ、単語だけ  
でも意思疎通ができるようにな  
り、家族になれたようだった。  
お別れの日にはショウニーで  
過ごした日々の思い出がよみが  
えり、涙が出そうになった。